



第5章

王国

イスラエルの子孫達がたどり着いた、パレスチナの地に住む者達の間には、悪がはびこっていた。彼らはカナン人と呼ばれており、イスラエルとは異なった言語を使用していた。彼らは、金や銀、真ちゆう、そして木々等で作られた神々を崇拜し、人間をいけにえとして捧げていた。

バル様、我々はこの無垢な子供を捧げます。この子の血が、あなた様のお怒りを鎮めてくれますように。。

私は、私の霊的な罪の贖罪のいけにえとして、この赤ん坊を捧げます。

いつの日か、我々もいけにえを捧げられるくらい立派な大祭司になろうな。

不愉快な思いをさせられるが、やらねばならんことじゃ。善には福を、悪には罰を。

神は、彼らとその罪を悔い改めるように、預言者と祭司を送った。しかし、彼らは聞く耳をもたなかった。そこで神は、ノアの時代やソドムとゴモラの時同様に、カナン人たちを滅ぼそうとお考えになられた。



約束の地、カナンに住んでいた偶像礼拝者達は、イスラエルの子孫達の存在を認めず、自分たちの土地を守るために戦いを挑んできた。しかし神は、彼らを打ち負かすため、イスラエルの子孫達に必要な力を備えられた。



よくも、神聖な神殿へ来られたものだな！

あなたは、最後に残った自分の子供を殺してしまったのだ。




血塗られた戦いに幕が下るされ、ヘブル人たちは敵を征服し、土地を得た。そこでヨシュアは、人々に向かって言葉を発した。

我々の父祖、アブラハムは、偶像礼拝のはびこる土地から出てこられた。神様は、彼を偉大なる国民とする、と約束された。

また、神様は、アブラハムの民がエジプトへ下ること、そこに400年もの間とどまること、そしてその後、今あなたがたが立っている約束の地へと連れ戻す、ということ、語っておられた。500年以上もの年月が経った今、その昔アブラハムと交わした約束を、神様ご自身が成就してくださったのだ。




今こそ、この地に広がり、落ち着こうではないか。しかし、この地に未だ残っている罪人達に惑わされてはならない。神様は、彼らを裁くのと同じように、あなたがたを裁かれるのだから。



新しい土地で、彼らは平安を得た。誰もが自分の畑を持ち、食べる物も十分にあった。神は、民全体を豊かに祝福された。

食事ができましたよ。

この岩をどけたらすぐに行くよ。



神が約束された通り、ヘブルの民はカナンの地で増え広がった。彼らの住む町はどこも、善意と正義と活気に満ちていた。この新しい国は、イスラエルと呼ばれた。

姉妹よ、あなたに平安があるように。今日の魚はどうだい？

いつも通り、新鮮よ。

全能なる神は、我々の敵を滅ぼされたが、この地には未だに偶像礼拝の罪が残っている。この地にいた者達が仕えていた神々か、アブラハムの神か、どちらでも、あなたは今日選ぶがよい。私と私の家とは、全能なる主に仕える。

私達が主を捨てて他の神々に仕えるなど、絶対にそんなことはありません。全能なる神様は、偉大なる力をもって私達をエジプトから救い出し、荒野においても養って下さいました。

主は我らのために、アモリ人を含むすべての敵を追い払ってくださった。我々も主に従う。主こそ我らの神なのだから。

神は聖なる神であり、ねたむ神である。もしあなたがたが主を捨てて、偶像の神々に仕えるなら、主はあなたがたにわざわいを下し、あなたがたを滅ぼし尽くす。

私達は全能なる神に仕えます。



あなたがたは、主を選んで、主に仕えるという、自分自身の証人である。

私たちは証人です。

私は、あなたがたが今日、神と結んだ契約を書き記そう。

我々は、モーセに従ったように、あなたに従う。主なる神が、モーセと共に歩まれたように、あなたと共におられますように。誰でも神の戒めに背く者は、死の裁きを受けますように。

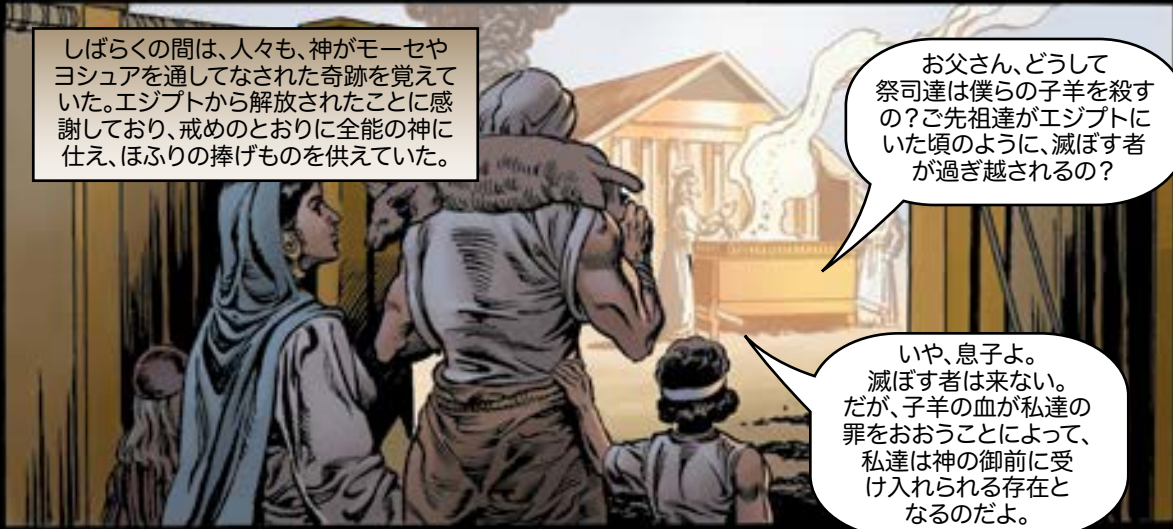


人々は、モーセの掟を読み、神と語る士師達によって統治された。彼らは人々に神の教えを説き、神に従うよう日々導いた。

雄牛が誰かを角で傷つけた場合、神の掟ではどうなりますか？

モーセは言っている。飼い主は危害に対する責任があり雄牛は殺さねばならぬ。






しばらくの間は、人々も、神がモーセやヨシュアを通してなされた奇跡を覚えていた。エジプトから解放されたことに感謝しており、戒めのとおり全能の神に仕え、ほぶりの捧げものを供えていた。


お父さん、どうして祭司達は僕らの子羊を殺すの？ご先祖達がエジプトにいた頃のように、滅ぼす者が過ぎ越されるの？

いや、息子よ。滅ぼす者は来ない。だが、子羊の血が私達の罪をおおうことによって、私達は神の御前に受け入れられる存在となるのだよ。



民は、神を礼拝し、その教えに従う、とヨシュアに約束したのだが、すべての者が継続して、全能なる神を礼拝し続けたわけではなかった。

奇跡を見ることがなくなると、次の世代の者達は生ける神を忘れ、命のない偶像を拝むようになった。また、自分たちの先祖を礼拝することもあった。



ヨシュアが警告していた通り、神はイスラエルを滅ぼすために、異教徒達を送った。

やめてくれー！
バアルの神よ、
お助け下さい！

うおー！



神の民の上に裁きもたらされると、彼らはその教えを思い出し、自分たちの罪を告白して悔い改めた。

全能なる神様、私達の罪をお赦し下さい。私達に再び平安をお与え下さい。

民が自分たちの罪を認め悔い改めると、神は彼らを赦し、その地をもとのように回復させた。



しかし民は、神を求め、神の教えの書かれた書物から人々を支配する士師達に嫌気がさしてきた。そこで、彼らは、自分たちを治めてくれる王を選ぶことにした。

預言者であり、祭司でもあるサムエルが、民に対し、もし王を置くのなら、神を拒絶することにつながる、と警告した。しかし民は、信仰をもって歩むことなど、もはやしたくはなかったのである。王になったサウル王は、人々に辛くあたり、彼らの土地や金を取り上げた。また、彼らの息子達を奴隷にし、娘達を虐げた。

お前の土地は国に没収される。娘はここに置いてゆけ、我々が面倒を見てやろう。



年を重ねたサウル王は、やがて邪悪な霊に支配されるようになり、制御不能なかんしゃく持ちになった。

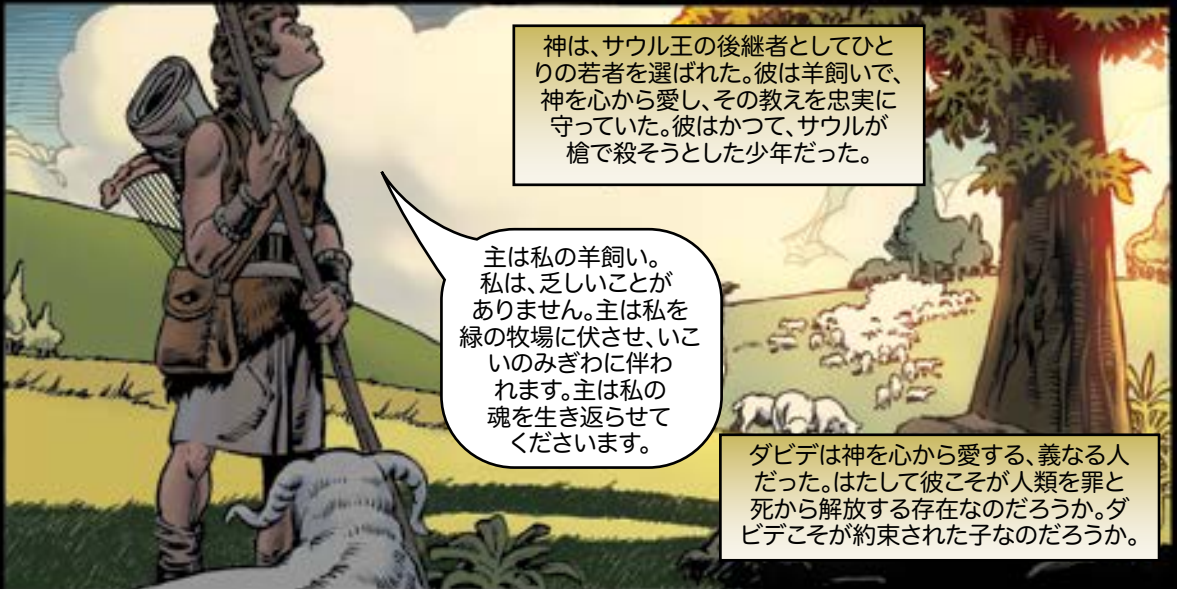
ある日、王は彼の為に豎琴を奏でていた、ダビデという少年を槍で突き刺そうとした。

サウル王は罪を重ね、周りの者をねたみ、常に何かにおびえていた。悪霊は彼に富と権力を約束したが、結局それらは彼の精神に苦痛と惨めさをもたらしたただけだった。

サウル王は生ける神を捨て、魔女達に助言を求めた。

闇が見えます。良い兆候ではございません。あなた様は戦で命を落とし、他の者があなたの後を継ぐでしょう。

サウルは戦で死に、彼の魂は地獄に追いやられた。



神は、サウル王の後継者としてひとりの若者を選ばれた。彼は羊飼いで、神を心から愛し、その教えを忠実に守っていた。彼はかつて、サウルが槍で殺そうとした少年だった。

主は私の羊飼い。私は、乏しいことはありません。主は私を緑の牧場に伏させ、いこのみぎわに伴われます。主は私の魂を生き返らせてくださいます。

ダビデは神を心から愛する、義なる人だった。はたして彼こそが人類を罪と死から解放する存在なのだろうか。ダビデこそが約束された子なのだろうか。



ダビデの詩

幸いなことよ。悪しき者のはかりごと
に歩まず、罪人の道に立たず、あ
ざける者の座に着かない人。主のお
しえを喜びとし、昼も夜もおし
えを口ずさむ人。

その人は、流れのほとりに植えられ
た木。時が来ると実を結び、その葉
は枯れず、そのなすことはすべて
栄える。

悪しき者は、そうではない。まさし
く、風が吹き飛ばすもみがらだ。
それゆえ、悪しき者は、さばきに、罪
人は正しい者のつどいに立ち得ない。
まことに、正しい者の道は主が知っ
ておられ、悪しき者の道は

滅び去る。
(詩篇 第1篇)

サウル王の死後、ダビデはイスラ
エルの王となり、神を礼拝しその
教えに従うよう、民を導いた。

彼女に土地を返還
しなさい。また、これ
以上税が課せられない
ようにせよ。

ダビデの統治下で
国は栄え、人々は
正直に生きた。

神はダビデに語りかけられ、将来起ころうとしている事柄について、多くを明らかにされた。ダビデはそれらの預言を詩篇に書き記した。その多くは、実際すでに成就されている。

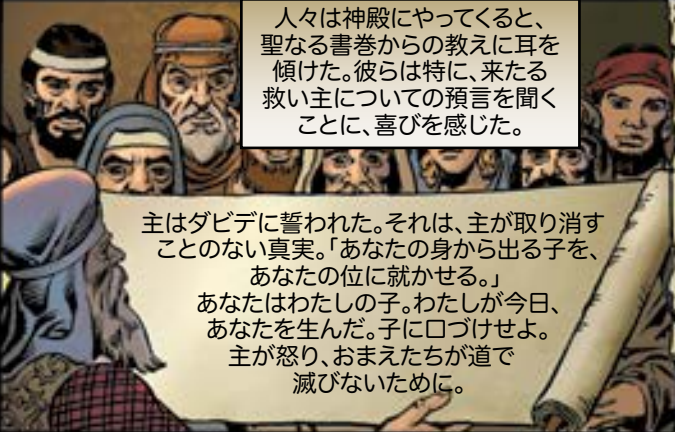
ダビデは義なる人であったが、罪を犯すことがなかったわけではない。したがって、彼は、約束された救い主ではなかった。彼は、救い主について、こう書き記した。

彼が義をもって、あなたの民をさばきますように。公正をもって、あなたの苦しむ民を。王が、民の苦しむ者たちを弁護し、貧しい者の子らを救い、虐げる子どもを打ち砕きますように。彼の代に、正しい者が栄え、月がなくなるときまでも豊かな平和がありますように。海から海に至るまで、川から地の果てに至るまで王が 続べ治めますように。こうして、すべての王が彼にひれ伏し、すべての国々が彼に仕えるでしょう。虐げと暴虐から王は彼らのいのちをあがないます。王のためにいつも彼らが祈り、絶えず王をほめたたえますように。王の名がとこしえに続き、その名が、日の照るかぎり増え広がりますように。人々が彼によって祝福され、すべての国々が彼をほめたたえますように。(詩篇第72篇より)

神はダビデに言われた。「あなたが死んだ後、わたしはあなたの息子のもとに王国を設けよう。彼はわたしのために神殿を築き、わたしはそこで礼拝される。わたしは彼の王国を堅固なものとする。」

ダビデの死後、彼の息子であるソロモンが即位した(紀元前971)。神がダビデに与えていた指示通りに、ソロモンは神殿を建て(紀元前966)、荒野で遣われていた、老朽化していた幕屋を建て直した。イスラエルの人々は、かつてないほどに栄えていった。真に神は、約束された土地において彼らを祝福する、という約束を成就してくださったのだ。

しかしまだ、成就していない約束もあった。悪を打ち破る救い主の到来についての、約束だ。人々は未だに罪を繰り返し、そのために動物の血が、あがないのために捧げられていたが、彼らは、いつか、救い主が永遠に彼らの罪を取り除いてくださる日まで、自分たちの罪をおおうために必要な道を、備えてくださっている神に感謝した。

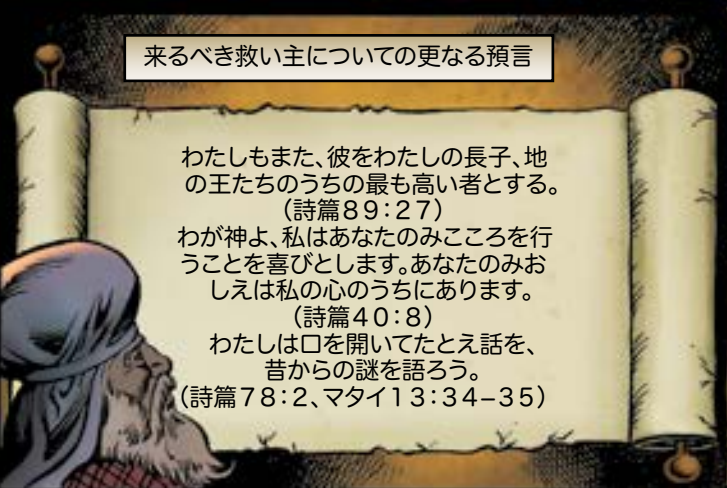


人々は神殿にやってくる、
聖なる書巻からの教えに耳を
傾けた。彼らは特に、来たる
救い主についての預言を聞く
ことに、喜びを感じた。

主はダビデに誓われた。それは、主が取り消す
ことのない真実。「あなたの身から出る子を、
あなたの位に就かせる。」
あなたはわたしの子。わたしが今日、
あなたを生んだ。子に口づけせよ。
主が怒り、おまえたちが道で
滅びないために。


ダビデは、来るべき救い主について、
多く書き記した。
主は、わたしの主に言われた。「あなた
は、わたしの右の座についていなさい。
わたしがあなたの敵をあなたの足台
とするまで。」
(詩篇110:1)
神よ、あなたの王座は世々限りなく、
あなたの王国の杖は公平の杖。あなた
は義を愛し、悪を憎む。それゆえ、神
よ、あなたの神は喜びの油をあなたに
注がれた。あなたに並ぶだれにもまして。
(詩篇45:6-7)

来るべき救い主についての更なる預言



わたしもまた、彼をわたしの長子、地
の王たちのうちの最も高い者とする。
(詩篇89:27)
わが神よ、私はあなたのみこころを行
うことを喜びとします。あなたのみお
しえは私の心のうちにあります。
(詩篇40:8)
わたしは口を開いてたとえ話を、
昔からの謎を語ろう。
(詩篇78:2、マタイ13:34-35)

ダビデは、来るべき救い主について、
こんな不思議なことも記している。
水のように私は注ぎ出され、骨は
みな外れました。心はろうのように私
のうちで溶けました。私の力は、
土器のかげらのように乾ききり、
舌は上あごに張り付いています。
死のちりの上に、あなたは
私を置かれます。
犬どもが私を取り囲み、悪者どもの
群れが私を取り巻いて、私の手足に
かみついたからです。私は自分を
凝らし、私を見ています。彼らは私の
衣服を分け合い、私の衣を
くじ引きにします。
(詩篇22:14-18)




ソロモン王の統治は、永く繁栄をもたらした。しかし、彼の死後、
王国の北半分が分裂し、ヤロブアムという邪悪な男が王となった
(紀元前975年)。北王国は、エルサレムにある神殿から遠く離
れていたため、彼らは、自分たちの手で金の子牛を作り、独自に
偶像礼拝の場を建設した。

これこそが、あなたが
たをエジプトの地から連
れ出してくださった神で
ある。そして、ここにい
るのがその祭司達だ。

しかし、モーセの
教えと、神がお建て
になられたエルサレ
ムの神殿はどうなる
のですか？

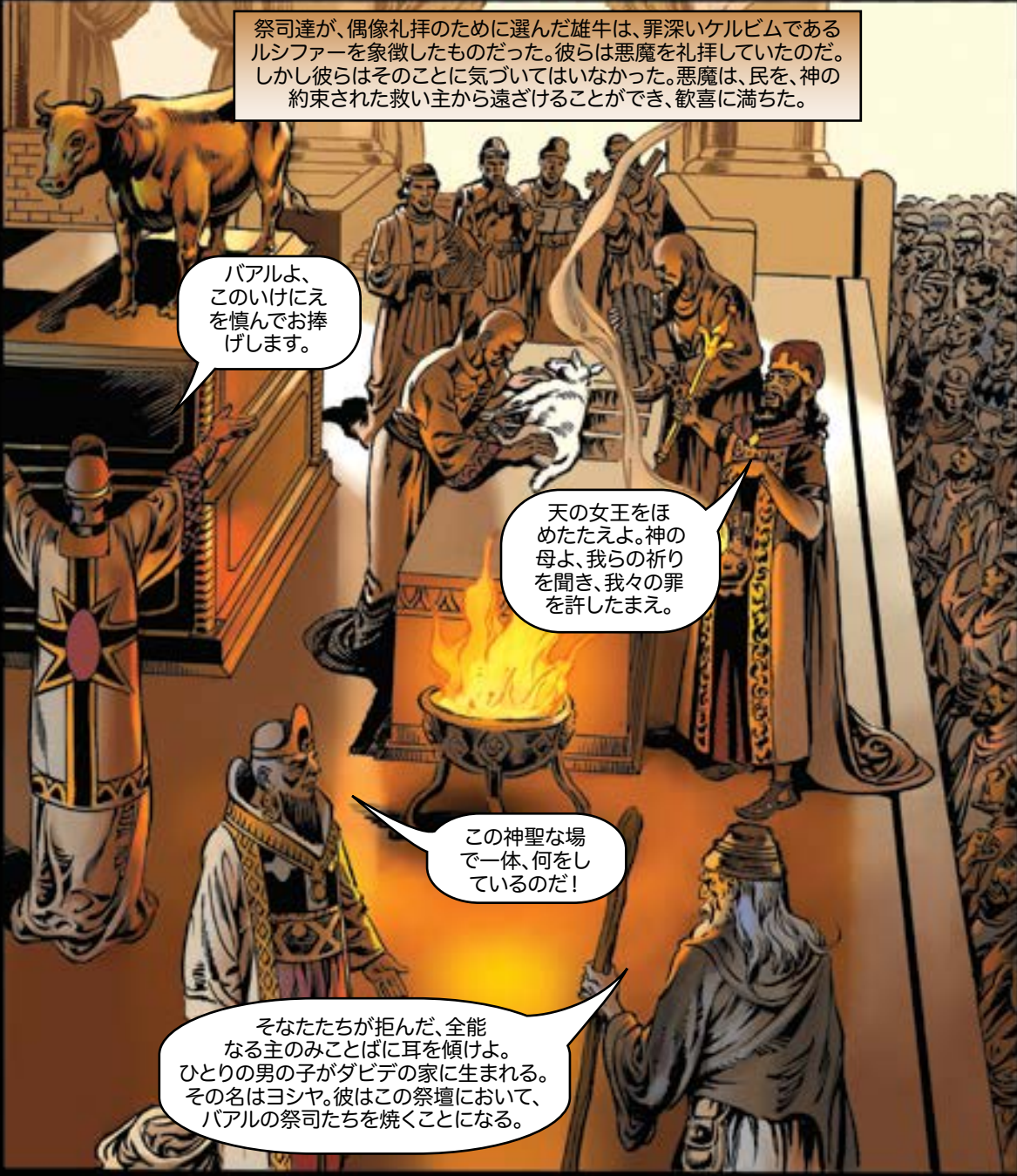
神といっても様々な
形がある。ある者達はエ
ホバと呼び、ある者はア
ラーやケモシュと呼ぶ。
我々はバルと呼ぶこ
とにしよう。

しかし、神様がその預言者達にお与え下さ
った聖なる書物は、どうなりますか？そこには、
神様以外の神々を求めてはならないと記され
ています。神様は唯一のおかたであり、神様へ
の道はたったひとつである、と。



お前は神が心の狭い方だと思っているのか？

そんなへりくつは聞きたくない！これからはバアル信教を国教とする。逆らう者は、死刑だ！




祭司達が、偶像礼拝のために選んだ雄牛は、罪深いケルビムであるルシファーを象徴したものだった。彼らは悪魔を礼拝していたのだ。しかし彼らはそのことに気づいてはいなかった。悪魔は、民を、神の約束された救い主から遠ざけることができ、歓喜に満ちた。

バアルよ、このいけにえを慎んでお捧げします。

天の女王をほめたたえよ。神の母よ、我らの祈りを聞き、我々の罪を許したまえ。

この神聖な場で一体、何をしているのだ！

そなたたちが拒んだ、全能なる主のみことばに耳を傾けよ。ひとりの男の子がダビデの家に生まれる。その名はヨシヤ。彼はこの祭壇において、バアルの祭司たちを焼くことになる。




なぜそんなことが言える？未来のことは、神々にしか分からないのだぞ。

主なる神のみことばだと申しておるのだ。ここにいる祭司たちの骨は、この祭壇の上で焼かれるのだ。




これが、主の告げられたしるしである。見よ、あなたがたが築き上げた、愚かな偶像の祭壇は、裂けて、その上の灰はこぼれ出る。



はっはっは、ロバのいななきのような、こやつをやかましかったわごとを聞いたか？自分は正しくて、周りには皆、間違っていると思っているようだ！


こいつを捕らえて殺してしまえ！他人の宗教に難癖つけることは許さん！



腕が萎えていく！全能の神が罰しておられるんだ！腕をもとに戻すよう、神に祈ってくれ！



主なる神よ、あなたのお力を、お示してください。王の腕を癒したまえ。



奇跡だ！神が癒してくださった！

ガシヤーン! ドスーン!

ひいっ!

やめてくれー!

全能の神がお語り
になられておる!

全能の神が私の宗
教を壊してしまった。
もう何も残っていない。

まことにあなたは、
神に遣わされた者だ。バアルの
預言者たちは誰も、このようなし
を行えない。私と一緒に来てくださ
い。共に飲み、食べて、身を休めま
しょう。そして、この日、あなた
がおこなった神への大なる働きに
対して、富と名誉を贈らせてくだ
さい。

しかしあなたは、
祭司たちの骨が祭壇で
焼かれると言われました
が、その祭壇はなくな
り、誰も死ぬことは
ありませんでした。

わたしはあなたと一緒にまいり
ません。主の言葉によってわたしは、
「イスラエル滞在中、パンを食べては
ならない、水も飲んでではない。また、
もと来た道を通って帰ってはな
らない。」と命じられているから
です。

わたしにも分かりません。
ただ言えるのは、私ではなく、
神が語られた言葉なのだ、
ということです。



神がお命じになられたように、予言者は別の道を通って帰った。彼は2日間、飲まず食わずだった。非常に空腹を覚え、喉も渴いていた。金色の牡牛の偶像を拝んでいた二人が、予言者の後をついていった。

お父さん、もし自分のこの目で見ていなかったら、僕はとうてい信じられなかったよ。まるで古代の、イスラエルの預言者たちの様だった!

お父さん、彼の言っていることは本当なの? 全能の神だけが、唯一の神様なの? 僕たちの偶像は、単なる木材と金であって、それ以上の存在ではないってこと?

急げ! ロバに鞍をつけよ! 彼を見つけに行こう!



彼は、木の下で休んでいる、全能なる神の預言者を見つけた。それほど力を持っている男に、近づいてみたくなったのだ。彼も、以前は神の預言者であったが、王国が分裂した際、国民とともに偶像礼拝の道に進んでしまっていた。宗教はどれもみな、同じなんじゃないか、と結論づけたのだ。

ユダから来られたという神の預言者とはあなたのことですか。さぞ、お疲れでしょう。私の家においでください。何か、食べ物と飲み物を用意しましょう。

いいえ、この場所では飲食は出来ないのです。神が命じられましたので。

実は私もあなたと同じ、預言者なのです。今朝、神の御使いが現れ、あなたを私の家に迎えてあなたに食べ物と飲み物を差し上げるように、とおっしゃられたのです。私は喉が渴いていたのです。

ありがたい!

素晴らしい食事でした。さて、私はユダへ戻らなくては...

全能なる神がお語りになりました。「この地において飲食をしてはならない、という神の言葉に、あなたは従わなかった。あなたの死体はユダに戻ることは出来ず、家族と一緒に墓に葬られることはないであろう。」

父さん、それって預言ですね。神様は父さんにもお語りになられたの?

そうだよ、息子よ。この何年かで初めてのことだ。

彼は死ぬって言うことですか?

残念ながら、そうなる。私が悪いんだ。



あれはユダの
預言者だ！

もっと奇妙なこ
とに、ライオンとロ
バが、一緒に傍らに
座って、預言者の身
体を守っているかの
ように見える。

こんな光景は今
まで見たことがない。
ライオンが彼の命を奪
ったようだが、そのラ
イオンは側にただ座っ
ている。彼を食べよう
ともしない。

うわー！

神が、ご自身のおことばに対して常に誠実であられる、ということを知っていた預言者は、重い心のままその家を後にした。彼はいつか自分は死ぬ、ということを知っていた。ただ、その時がこんな形で、こんなにも早く訪れるとは、予期していなかったのである。

300年の後、ユダ王国ではヨシヤ王が王位についた(紀元前640年)。王は、神殿に赴いた際、聖書の写しを見つけた。国民が、生ける神の存在を忘れて、偶像礼拝を犯している現実、心かき乱される思いだった。そこで王は、すべての長老、預言者、祭司を含む、すべての住民を招集し、聖なる書物を読み聞かせた。



偽預言者は、ユダの預言者を抱え上げ、神が滅ぼしたバアル神の祭壇近くに位置する、バアルの預言者達に与えられた墓地の、自分の所有地に、彼を埋葬した。

神は、命令に背いた彼に裁きを下された。確かに神の預言は現実となる。

神の預言者は葬られ、やがて、一部の者をのぞいて、その存在は忘れられていった。バアルのための祭壇は再建され、300年経った後もまだ、礼拝用に使用されていた。しかし神が仰せられたように、そこで再び人間のいけにえが捧げられることはなかった。



民は、これまでの罪を恥じ、書物に書かれている言葉に従うことに同意した。



聖母よ、お助けください。

民は神の教えに従い、地にはびこる全ての偶像を破壊した。そして、太陽や月、惑星、または天の女王を拝み、それらに対して香をたく祭司達を滅ぼした。



モーセを通して与えられた神の戒めは、同性愛を禁じているため、すべての男性愛好者たちは、その地から追放された。

許せないわ。



彼らはまた、霊使いや霊媒師、魔女達を一掃した。

その水晶玉を砕き家を焼け!

ヨシヤは、300年前に預言者が、当時初代の王であったヤロブアムに対面した、祭壇の高き所にやってきた。

彼らは祭壇と、偶像全てを破壊し木々を切り倒し、それらを全て粉々にした。

神は唯一の神であり、偶像を通して礼拝されるべきお方ではない。偽の祭司達は、民を惑わし、全能なる神から人々を遠ざけてしまったのだ！

お前は死刑だ。

再び祭壇は裂かれ、灰はこぼれ落ちた。

全ての偽祭司達は殺され、廃墟と化した祭壇の上で焼かれた。

近くには、偽祭司達のための墓があった。民がその墓を拝むことがないように、ヨシヤは彼らの骨を掘りおこし、その祭壇で焼いた。



すべての骨を焼き尽くすのだ。

しかし、陛下、この墓は300年ほど前にユダから来た、まさに今日を預言した神の使いの者の墓でございます。彼はまさしく、ヨシア王、あなた様が今日、ここへ来て行われた事を預言しました。

それなら彼の骨はそのままに。他の骨は焼くのだ。神の祝福のもと、偶像崇拜は終わりを迎えねばならぬ。

かくして、300年も前に、神の使いによって預言されたことが成就した。

偶像礼拝がなくなった後、ヨシア王は、かつて父祖達をエジプトから救い出してくださった全能なる神を覚えるために、過ぎ越しの祭りを再開することを命じた。

主なる神をほめたたえよ、全宇宙をつかさどり、恵みの産物を地より生み出してくださるお方を。

お父さん、どうして今日はいつもと違うの？

そこで父親は、どのようにして神が父祖達をエジプトの苦役から救われたのか、また、幕屋に関することや神の教えについて、彼らに話して聞かせた。そして、死の使いからその家の長男を守るために、門の柱に塗られた血のしるしのことも。その夜起きた出来事は、かつてない過ぎ越しの体験だったのである。